

# 人権啓発センター だより

平成27年10月  
No.22



## 地域のおまつり

私の住む地域では、毎年、小学校の運動場で夏まつりが開催されます。

今年32回目を迎えたこのおまつりは、小学校PTAや各町内会等、地域の各団体役員から構成される実行委員会で運営され、私もここ数年、PTA役員として参加していますが、地域のおまつりをみんなで作り上げているという一体感や達成感をとても心地よく感じています。

それとともに、地域の関係が希薄になりつつある中、おまつりや地区運動会等の行事を通じて、各世代の結びつきを強めておくことは、自主防災組織等の大地震への備えや被災した後の復興への取組にも必ず役立つだろうと思います。

私自身、阪神大震災を神戸で経験し、地震の恐ろしさ、復興の大変さは身にしみている、南海大地震が来たときには、自分たちの命は自分たちで守り、地域で協力して立ち向かわないといけないと感じており、おまつりを大いに満喫している3人の子どもたちが大きくなったときも、このおまつりが地域をまとめる夏の楽しい行事としてしっかりと続いていることを願っています。

(高知地方法務局人権擁護課 守屋)



## 人権あれこれ

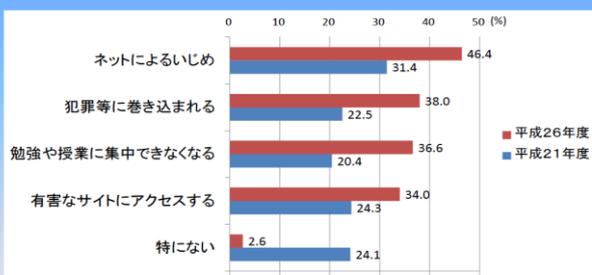
近年、携帯電話等が子どもたちの間に急速に普及し、子どもたちの携帯電話等によるメールやインターネットの利用が増加しています。このような現状のなか、保護者の間では、インターネット上の学校非公式のサイトや掲示板等を利用して行われる、特定の児童生徒に対する誹謗・中傷などの「ネット上のいじめ」という新しい形のいじめ問題や、ネット犯罪などに対する心配事が増えています。(図1)

「ネット上のいじめ」に関わっては、国の問題行動等調査の結果(図2)から、携帯電話等による誹謗中傷の認知件数は、年々増加し実態が見えにくいことに加えて、認知された時には深刻化しており、解決の難しさが指摘されています。県教育委員会では、「ネット上のいじめ」で子どもたちが苦しむ事がないよう、人権教育を基盤とした情報モラル教育を推進するとともに、PTA研修会等を通じて保護者への積極的な啓発を行っています。

今後は、教職員、保護者、地域の方々と力を合わせて「ネット上のいじめ」をはじめとする人権侵害を許さない環境をつくっていきたいと考えています。

携帯電話をめぐる保護者の  
心配事が増えている

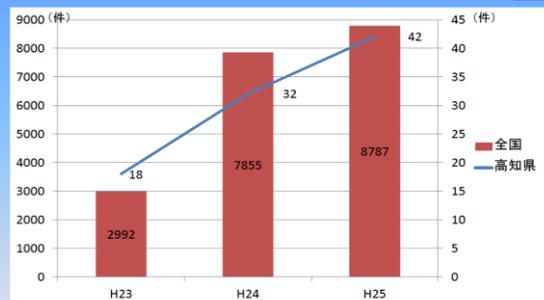
図1



(公社)日本PTA全国協議会 平成26年度質問紙調査(小・中学生の保護者対象)

いじめの態様について、携帯電話等による誹謗中傷  
(児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)より)

図2



・ ネット上のいじめについては、ネットの特性上、潜在化・深刻化する傾向がある。

(高知県教育委員会人権教育課 山中)

# じんけんライブラリー

## 一押し本

「読めなくても、書けなくても、勉強したい  
～ディスレクシアのオしなりの読み書き～」

井上 智・賞子／著 ぶどう社 (1,800円+税)

「ディスレクシア」は、脳の一部の機能不全によって、読んだり、書いたり難しい障害。学校や社会に出てからの生活で感じたこと、気持ちが落ち着いた現在の生活に至るまでの経緯などを読みやすく書いている。

特に著者は、「学校の先生に読んでほしい。今、目の前で学習障害に苦しんでいる、子どもたちを救って欲しくて」と強調している。

(企画啓発課 松本)

## 新刊紹介

タイトル、著者、出版社	内 容
『ぼくの命は言葉とともにある～9歳で失明、18歳で聴力も失ったぼくが東大教授となり、考えてきたこと～』 福島智/著 (致知出版社)	光と音の世界を喪失した著者。想像を絶する状況においても生きることへの希望を絶やさず、生きる意味について考え続けます。飾らない言葉からはエネルギーがあふれ、コミュニケーション(言葉)は命そのものだという言葉に深くうなずきます。何度も読み返したくなります。
『職場のLGBT読本～「ありのままの自分」で働ける環境を目指して』 柳沢正和、村木真紀、後藤純一/著 (実務教育出版) ※L(レスビアン) G(ゲイ) B(バイセクシュアル) T(トランスジェンダー)	『本書は、おそらく日本で初めての「ビジネス書・人事」の棚に置かれるLGBTの本になるだろう』(あとがきより)。職場環境づくりの新しい課題のひとつとして、LGBTの人たちと共に気持ちよく働ける職場環境づくりのために啓蒙的かつ具体的なアドバイスも盛り込んだ実用書。
『しない・させない・まねかない セクハラ・パワハラ』 岡田康子・木村節子/著 (労働新聞社)	「セクハラ」「パワハラ」を職場からなくすため、マンガを用いてセクハラ・パワハラの実態とその対応策を考えます。研修用テキストとしても活用できます。
『健康で文化的な最低限度の生活』①② 柏木ノルコ/著 (小学館 ビックコミックス)	新卒公務員の主人公が配属されたのは福祉事務所。ケースワーカーという生活保護に関わるしごとで働くことになった、新卒公務員の主人公の奮闘劇。次巻が楽しみです。

### ★新着DVD

研修用DVDのほか、「ペコロスの母に会いに行く」「毎日がアルツハイマー」、「祝の島」(総編あや監督)など、話題作も入荷しています。ぜひご利用ください。



## 事業報告

### ミニ番組「心呼吸しよう」を制作・放送

当センターでは、テレビを活用して各市町村で実施される人権啓発の取り組みやセンターの事業等を素材に5分間のミニ番組「心呼吸しよう」を制作・放送しています。



今年最初の放送は、8月30日（日）17：25～17：30にKSS高知さんさんテレビで放送されました。

スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業として、アイゴッソ高知と連携し、小学生を対象にした人権啓発サッカー教室を取り上げました。サッカーというスポーツを通じて「協力することや、仲間を思いやることの大切さ」等を学ぶ様子が放送されました。

過去の放送分も当センターホームページよりリンク又は、KSS高知さんさんテレビのホームページをご覧ください。



(企画啓発課 佐伯)



# Information お知らせ

## 啓発DVD紹介



『あなたに伝えたいこと』

**人権課題** インターネット/同和問題 (36分)

結婚話を発端に、恋人や友人、家族などとの関わりから、同和問題が身近な問題であることを知る。

ネット上の情報に左右されることなく人とふれあい、お互いを正しく知ることが、同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝える。

『ペコロスの母に会いに行く』

**人権課題** 高齢者 (113分)

長崎を舞台に、認知症の母親とその息子との笑いと涙に溢れた日々のふれあいを描く。ペコロスのようなハゲ頭のゆいちは、夫の死を機に認知症を発症し始めた母、みつえの面倒を見ていたが・・・。



※じんけんライブラリーのDVD保有数は174本です



## じんけんライブラリー 利用案内



## ホール案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で  
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書  
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
  - ビデオ・DVD  
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
  - パネル  
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
- ※ 直接来所できない場合は送付もいたします。  
(送料は利用者のご負担となります)

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員  
270名(机を使用する場合は180名)
- 設備  
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他  
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号  
公益財団法人 高知県人権啓発センター TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440  
E-mail : center@kochi-jinken.or.jp HP : http://www.kochi-jinken.or.jp